

## コムアルノ歴史めぐり

ジトニーオストロブの南東、ドナウ川とバー川の流れに位置するカルパシア盆地で最も古い開拓地のひとつコムアルノは豊かな歴史に恵まれています。

考古学者らの発見によると青銅時代後期から人が住み始めたのだらうと書われています。

BC世紀終わりにトランスダニウシアはバー川河口にも定住していたケルト族に支配されていました。そのため、現在ケルト文化の名残はコムアルノ、イザ周辺、ドナウ川の右岸で見ることが出来ます。

AD1世紀にドナウ川まで達したローマ軍はその駐留地とブリゲッテリオをケルト民族定住地後に建てました。また、ローマ人はそこにパンノニア州を建設し、その北側であるドナウ川沿いにババリア人から防護するための要塞を築きました。AD2世紀始めにドナウ川の北岸建てられたブリゲッテリオとその橋頭堡セレマントイアは辺境防御の重要な一部でした。しかし、4世紀の終わりにローマ人はパノニアからババリア人によって押し出され始めました。

考古学者によると中世初期最も長くコムアルノに住んでいた民族はアバー人でした。アバー帝国の崩壊後勢力を強めたモラビア-スラブ人はまだフランク人に

占領されていなかったアバーの領域を征服しようとした。その地にもフランク人とともに生活していたアバー人も攻撃されました。9世紀のコムアルノがフランク人もスラブ人のどちらに支配されていたのかはまだはっきりしていません。860年マジャールの戦士が時にはフランク側、時にはスラブ側として参戦し始めました。9世紀終わりにマジャール人とその同盟民族のちに彼らによって征服されるカルパシア盆地に着きました。10世紀にはケテル伯爵の民族がバー川河口に定住し始めました。ケテルは冬の居住地をドナウ川とバー川の合流点に建て、彼の息子であるアラプトルマによって防壁させました。

この居住地は後にハンガリー国が築かれる間コムアルノ州の中心となりました。

初期の記録でこの土地はCamarum(1075)、Kamam(1218)、Camarun(1268)、Kamar(1283)、Camaron、Comaron(1372-1498)などと記されています。コムアルノ城のあった23の領地のひとつ“ヴァイカマルン”はその特権を1265年ペラ王4世によって与えられ、中世のコムアルノの発展に役立ちました。居住者は工業を発達させたり、市場もよく行われました。

中世のコムアルノは特にマシアス・コムアルノス王の下、

繁栄しました。コムアルノ王は城内にルネサンス宮殿を建て安らぎと娯楽のために度々この地を訪れました。また彼の結成したロイヤルドナウ小型船体は後にトルコ対の戦いで重要な陣営となりました。

16世紀、トルコの領地拡大の間コムアルノはハプスブルグ家とオスマン王朝のあったため16世紀半ばフェルディナンド一世の下その城は要塞強化のため再建設されました。結果、新しく拡大された要塞は見事トルコ軍の攻撃に耐えました。

18世紀、トルコ人を国から追放し、ハプスブルグ家に対する反乱の後、その有利な地理を生かしてコムアルノは国中で最も大きな町のひとつとして商業や工業と共に発展していきました。1745年マリア・テレサ女王の勅許状により免税を許されました。その他にも地域の貴族によってバロック宮殿、三位一体説信者、フランシスコ会、イエズス会によって教会が建設されました。

1763年と1783年、大地震によってこのバロックの町は損害を受け、その後もいろいろな災害を受けたにもかかわらずコムアルノは商業と工業の重要な中心地として19世紀半ばまでその役割を果たしました。

ナポレオン1世の戦争時代、コムアルノの要塞設備は再建造されました。その建設過程はコムアルノが

ハンガリーで起きた中産階級革命で重要なとりでとして役割を果たした1848—49年の間中断されました。しかしその要塞もその戦い中、大火事で破壊されてしまいました。

オーストリアの専制政治の間、軍の建築物が建てられ、その一部である要塞建築後の1876年、コマルノはオーストロ、ハンガリーの主な陣営となりました。しかしその反面、コマルノは次第にその経済力と地位を失っていききました。19世紀終わりから20世紀始めにかけてドナウ川とバー川にコマルノと他の地域を結ぶ、最初の鉄道である鉄橋が架けられ町の再発展を助けました。

オーストロ、ハンガリーの崩壊とチエコスロバキアの建国のためコマルノ州とその町は2つに分けられました。1923年ラバーゴロツ(ハンガリア語でのコマルノ) - エヌテルゴツ州の廃止によりコマルノはこの地方の中心地となり、そのために仕事が増え多くの人が造船所、ドナウ港、電力発電所、タリコの仕入れなどで働きました。新しいチエコスロバキア政府は事務所や新しい制度を定め、特に住民の構成を変えようと努力しましたが、その住民の大半がハンガリア人でした。そのためチエコスロバキアが建国された当初コマルノは少数民族であるハンガリア人の文化と社会生活の中心地とな

りました。

1938年、コマルノはウイーンによる決議でハンガリーに戻った後、1945年に再度チエコスロバキアの国境沿いの町となりました。その頃第二次世界大戦では破壊した建物の修復工事が始まりましたが、1945—48の間に起こった少数民族(ハンガリア人)を圧迫する動きのために工事が中断されることもありました。これらの圧迫されたハンガリア人たちの多くは市民権を奪われ現在のチエコの国境へ強制労働などのために移されたり、ハンガリー政府とチエコスロバキア政府の間で行われた住民交換でハンガリーに送られました。

後にコマルノの経済状態は新しい造船所の建設のために発展され、その労働者のための住宅団地が建設され始めました。1965年に起きたドナウ川大洪水の後もこの建設は続けられました。現在のコマルノは人口4万3千人からなる国境沿いの町として知られています。